



京都ふるさと連誕生の経緯

京都新聞社社友 龜井 励



京都ふるさと連の創立30年に想う

京都徳島県人会名誉会長 矢田 精治

「私は昭和59（1984）年、京都新聞曜日に、京都にある県人会を紹介する連載記事を書いた。その間、各県人会の代表者に集つて座談会を開いたが、出席者の中から、これを

この場限りにせず、連合会のようなものをつくつはどうかという声が出た。

その後、京都府の方からも、この連合会づくりを応援してもいいという意向が示され、京都新聞社も文化センターで事務局を引き受けることを決めた。これで一挙に話が進み、翌年8月に林田府知事、荒巻副知事、坂上京都新聞社長（いずれも当時）らも出席して発起人会を開催、10月には設立総会を京都ホテルで開いた。

以上は私が書いた県人会紹介の連載記事をまとめ昭和60（85）年に京都新聞文化センターから出版した『ふるさとの集い—京都の県人会』のあとがきにあたる「京都にある県人会」という文章の概要です。

ればお互いに活動の参考になることが多いことが分かったのです。

それまで県人会は故郷では知られていて京都では一般的に知られる存在ではありませんでした。それが連合体として活躍すれば京都でも知られる存

在になり、知名度も広まる。こういった各県人会幹部の認識が深まり、連合会結成への情熱が高まつたのです。

そこへもつて京都府の知事、副知事に理解があり、担当者も熱心でした。担当者は私と一緒に先進県の愛知県の実情調査に名古屋まで出張してくれたりしました。京都新聞社も良く理解して事務局を引き受けってくれました。こうして連合会は発足しました。

この度は京都ふるさとの集い連合会の創立30年おめでとうございます。

本連合会関係各位にはご同慶の至りでございます。心からお祝いを申し上げます。

この30年間の平成8年から18年までの10年間、本連合会の事業企画委員として活動参画いただきました私には、思い出も多く感慨無量なあります。

ここ回想する当時の主な本連合会事業活動としては、「定期総会と懇親会」「全国女子駅伝」「全国車いす駅伝大会」「鴨川清掃美化運動」等の活動をはじめ、「鴨川納涼」への出店協力や平安建都1200年記念事業「京都まつり」へのふるさと各地芸能の招聘応援等がありました。また、印象的交流活動としては、毎年恒例開催の「実務者研修会と懇親忘年会」「ボウリング大会」「チャリティーゴルフ大会」のほか、太陽が丘「ふるさとの森園遊会」と紹介研修ツアーや「映画村ふるさと芸能大会」「京都ふるさと映画祭」「全国各ブロックふるさと映画祭」「全国各ブロックふるさと映画祭」など多種多様な事業を適時開催することができました。

当時の本連合会役員と企画委員をはじめ各県人会役員と当連合会事務局担当各位のご尽力に改めて敬意を表しております。

これら30年間の本連合会の活動役割は、ふるさと連参加各県人会各位の活動により、実に素晴らしい大きな成果を果たしたものと自負されてよいと思っています。

しかし、一方、創立30年の成熟期である本連合会の近年の活動環境は、加盟各県人会会員の高齢化による世代交代に加え、各ふるさと意識高揚活動の気概減退現象も表れつつあり、また本連合会活動そのものも多少マンネリ化しつつあると言われている昨今、本連合会としての新たな活動展開計画の必要性を感じているところでもあります。失礼勝手な要望を記しましたが、ご検討頂ければ幸甚に存じます。

結びに、この度の創立30年を契機に、本連合会活動の益々の拡充発展と加盟各県人会各位のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

京都ふるさとの集い連合会

この文章にあるように、京都にある県人会の代表者が始めて集つて話し合つてみて、それぞれの県人会には成り立ちや行事などに特色があり、交流す

ます。

この文章があるように、京都にある県人会の代表者が始めて集つて話し合つてみて、それぞれの県人会には成り立ちや行事などに特色があり、交流す

ます。

京都ふるさとの集い連合会

（元）事業企画委員会委員長